

第12回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議 議事録

■日時：令和元年12月9日（月）9：10～9：25

■場所：特別室（本庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただ今から、第12回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議を開催します。

早速、議題「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真の策定」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料2を御覧ください。「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」です。

昨年2月以降、復興・創生期間後を見据えた復興のビジョンについて、国・市町村と一体となってビジョンを描いてほしいと知事から要請を行い、昨年8月の復興再生協議会で、世耕経済産業大臣から「中長期で広域的な産業発展の青写真」を描くこととされたものであります。

先月25日の分科会で議論を行い、先週末までに復興庁・経済産業省と最終的な調整を進めてまいりました。

本日付けで決定をいただきたいと考えております。

具体的な内容につきましては、資料1で御説明します。

資料1-1の基本的考え方、中長期で広域的な観点から地域が目指す、自立的・持続的な産業発展の姿と、その実現に向けて復興・創生期間後も見据えた取組の方向性を整理するものです。

基本目標として、復興需要が一巡した後も、全国と同様に15市町村内のGDPが成長することを目標としています。

全国のGDPは、震災前と比較し7%増加していますが、15市町村では建設業を除いて▲2.4%となっていることを背景としています。

目指していく姿として、「あらゆるチャレンジが可能な地域」、「地域の企業が主役」、「本構想を支える人材育成」の3つの柱を軸に、先導的な地域となることを目指すものであります。

重点分野には、廃炉・ロボット等の4分野に加え、今回新たに「医療関連産業」、「航空宇宙産業」の2分野を追加しています

資料1-2を御覧ください。

本構想の関連プロジェクトを地図に落としたものです。

浜通り地域等において、地元企業による新たな事業展開と域外からの新たな

活力の呼び込みを両輪で進めてまいります。

次に重点分野ごとの取組について説明します。

「1 廃炉」ですが、左上の現状のとおり、廃炉業務は30年から40年要する見込みであり、総額8兆円と試算され年間2,000億円の規模であります。地元企業に対する発注額は300億円程度であります。

具体的な取組欄のとおり、地元企業への発注・参入を拡大するため、地元企業にとって分かりやすい調達計画の提示に向け、東京電力と連携してまいります。

「2 ロボット・ドローン」について、福島ロボットテストフィールドが令和2年春に全面開所いたします。

具体的な取組欄のとおり、実際の使用環境を再現しながら、様々な研究開発・実証試験等を行い、インフラ点検や災害対応等の分野の産業集積を進めてまいります。

また、福島ロボットテストフィールドが、ロボット・ドローンの技術基準・運用ガイドラインの規格作成等の拠点となることを目指してまいります。

「3 エネルギー」について、令和2年1月からメガソーラーや風力発電235メガワットを接続する共用送電線が供用されます。

また、水素について、福島水素エネルギー研究フィールドでは、今年10月から試験運転を開始し、令和2年7月から実証運転が開始される予定です。

再生可能エネルギー由来の世界最大級の実証施設であり、モビリティ分野や産業分野などへの利活用を促進してまいります。

「4 農林水産業」について、ロボットトラクタなど4件の開発実証が終了し、野菜収穫ロボットなど4件の取組が進行中です。

浜地域農業再生研究センターでは、42地点で営農再開のための現地実証を進めているところです。

また、G空間情報を活用したスマート林業の取組も進められています。

新分野である「5 医療関連産業」ですが、福島薬事工業協会の医薬品製造分野の26社中11社が浜通りに拠点を設置しているところです。

具体的な取組ですが、実用化開発支援を行っている医療・福祉機器等について、ふくしま医療機器開発支援センターが事業化に向けて積極的に支援してまいります。

「6 航空宇宙産業」ですが、浜通り地域には、IHIという航空機用エンジンの製造を行う中核企業を始め、国際認証規格の取得企業14社が立地しています。

具体的な取組ですが、裾野の広い航空宇宙産業への参入に必要な国際認証取得のためのコンサルティングや設備投資、技術力向上を重点的に支援してまいります。

また、空飛ぶクルマの関連産業の集積ですが、国土交通省が昨年12月に策定

した「空の移動革命に向けたロードマップ」において試験飛行の拠点として位置付けられた福島ロボットテストフィールドを活用し、実証や関係企業を誘致してまいります。

こうした取組を通じて浜通り地域等の産業集積を図ってまいります。

【鈴木副知事】

今の説明に関して、商工労働部長。

【商工労働部長】

福島イノベーション・コースト構想の重点分野であります廃炉産業への県内企業の更なる参画、福島ロボットテストフィールドを活用したロボット・ドローンの研究開発や制度整備、再生可能エネルギーの導入促進などを進めてまいります。また、今回新たに重点分野となる医療関連産業においては、ふくしま医療機器開発支援センターを核として事業化の支援に取り組んでいくとともに、航空宇宙産業については、この分野に挑戦する企業への設備投資の促進や国際認証取得に向けて支援してまいりたいと考えています。

こうした構想を担う企業誘致はもとより、県内企業が主役となって最先端分野のみならず、幅広く構想に参画できるよう進出企業や各研究拠点との連携を深めながら新たな分野へチャレンジが生まれるよう取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

農林水産部長。

【農林水産部長】

原子力災害の被災地では、営農再開がまだまだ進んでおりません。また、放射性物質の影響により森林整備の遅れ、沿岸漁業における試験操業の継続などまだまだ多くの課題に直面しています。

このような状況の中、この青写真では新たな農林水産業の展開に向け、チャレンジが必要であるとの認識の下、具体的な取組として地域内外からの多様な担い手の確保、大規模経営体の育成、ICT活用による先端技術の開発・実証・普及などが盛り込まれたところです。

県といたしましても青写真に描く農林水産業の目指すべき姿に向けて国、市町村、関係団体と連携しながらしっかり取り組んでまいりたいと考えています。

【鈴木副知事】

教育長。

【教育長】

青写真の取組の柱の1つである構想を支える人材育成に向けて、国や関係機関と連携を一層密にしながら浜通り等の高等学校において、大学あるいは企業と連携したキャリア教育、そして先進的かつ特色ある教育プログラムを実施し、構想をけん引するトップリーダーあるいは即戦力となる専門人材の育成を進めてまいります。

また、小中学校段階から構想に関心を抱いていただくために理数系教育の充実を図るなど、構想を担う人材育成の裾野を広げる取組も展開してまいります。

【鈴木副知事】

他にありますか。出納局長。

【出納局長】

そもそも福島イノベーション・コースト構想は福島でしかできない福島ならではの構想であり、イノベーションで新たな福島を作り上げていくことなので、福島でしかできないことをもっと打ち出して行くべきだと思うが、そのあたりの考えはどうか。

【鈴木副知事】

企画調整部長。

【企画調整部長】

福島らしさについて、資料1-1にあるとおりに目指していく姿として、あらゆるチャレンジが可能な地域としており、地域全体が新たなチャレンジに向けた研究・実証フィールドとして活用され、それによって次々にイノベーションが生まれていき持続的な発展が可能となることを目指していきたいと考えています。

具体的には、ロボットテストフィールドにおける空飛ぶクルマの実証、また、水素エネルギー研究フィールドでは未来の水素社会の先駆けとなる取組、さらに、事故炉の廃炉という非常にチャレンジングなことを実施しており、正に福島そのものであると認識しています。

【鈴木副知事】

他にありますか。なければ知事からお願いします。

【内堀知事】

福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真は、2030年頃までに浜通り地域等が自立的、持続的な産業発展をしていく地域となる

ことを目指す中長期的なビジョンであります。

復興・創生期間後も見据え、構想の更なる具体化を図るため、本日策定したこの青写真に基づき関係機関とも緊密に連携をしながら全庁一丸となってしっかりと取り組んでください。

【鈴木副知事】

以上で本部会議を閉じます。